

Sussex での大学院生活

氏名：塩谷 理絵

専攻コース名：MSc Climate Change, Development and Policy

自己紹介

はじめまして！塩谷理絵と申します。生まれ育ちは東京で、チャリティや社会問題に関心のある家族に囲まれ、自然とSDGs周りのことに関心を持つようになりました。

大学は一橋大学経済学部に進学し、開発経済学や自然資源経済、加えて副専攻として国際関係を中心に学んできました。当時はコロナ禍に見舞われながらも、学生団体運営や食料支援、教育支援、環境問題に関するインターンを経験しました。写真はインターン時の記念写真です。

またオーストラリア国立大学との交換留学の中で、学生の主体性やバックグラウンドの違いの違う同士での交流に心を動かされ、もともとあった海外への関心を強めました。こうした経験の中で、環境や経済的格差についての関心も深めつつ、取り組むうえでのコミュニティの重要性に気が付きました。

大学卒業後も、環境や経済の問題に取り組みたいと考えていました。自分のバックグラウンドと異なる場、特に評価の高い研究・教育機関で学びたいと考えて、現在のコースに進学しました。

コースについて

現在私はMSc Climate Change, Development and Policyのコースで学んでいます。気候変動の原因とされる温室効果ガスや他の要因と、地上の熱の作用などについて簡単な科学的メカニズムを学びながら、気候変動の原因や対応などとしての立場から開発学を勉強しています。

卒論のテーマについては考えている最中ですが、開発途上国での気候変動に関する対策や開発について、できればコミュニティビルディングによる効果や成果について分析したいと思っています。

日本人は私以外いませんが、コースメイトにたくさん助けをもらいながら勉強しています。これまでに関連分野で経験を積んできた人、開発途上国出身者も多く、授業に対しても積極的に刺激をもらって



ます。コースメイト同士非常に仲が良く、おすすめの文献やイベントのシェア、ポットラックやパブクローなどもしていて、他のコースの人から羨ましがられることも！写真はポットラックの食べ物を写したもので、言葉通り世界中の料理が揃い、出身地の音楽に載せて踊ってとても楽しめました！



課外活動について

定期的に参加しているのは、キャンパス北部で農作業をするRoots SocietyとLanguage Caféでの日本語を教えるボランティアです。Roots Societyでは、土いじりをして自然に触れ、終わった後に参加者でご飯を食べながらリラックスする時間がとてもいいリフレッシュになっています。またLanguage Caféは、話が脱線することが多いものの、参加者と互いに興味のあることを、日本語も交えてゆったりと話して楽しめています。

将来について

正直に書いてしまうと、まだどんな職について、どこで働きたいかは詳しくはわかりません。自分が学んできていた環境や開発に関わる分野や手法についてとり組んで行きたいと思っています。今イギリスにいる日本人ということで日本中心に就活はしていますが、折角なら制限をかけてしまわずに働きたいと思っています。

アプローチ自体はNPOやNGO、社会的企業の立場から取り組みたいと考えています。課題解決時に、実情に合わないのでは限界が来るとしているためです。もちろん国際的な枠組みは非常に重要だと日々学んでいるため、本音ではまだまだ迷っています。

ちなみに写真はLSEのキャリアイベントに参加したときのものです。国際機関の紹介がたくさんあり、雲の上の存在としか思っていなかったキャリアについても触れることができるいい機会になりました。まだ1学期目を終えたばかりの若造ですので、アドバイス等いただけることがありましたらぜひお願いいたします。



キャンパス便り



氏名：名村 穰司（なむら じょうじ）

専攻コース名：MSc Sustainable Development
2024-2025

こんにちは！2024年-2025年度にサセックス大学のビジネススクール・科学政策研究ユニットの持続的な開発学コース修士課程に留学している名村穰司です。

私のキャンパスライフについてご紹介いたします。

留学の背景

私は世界中の学生と共に、開発や国際問題についてディスカッションがしたいと思い留学を決めました。背景として、親の仕事の都合によりラオスで12年間育ったことや、大学時代にウガンダへのインターンシップに参加したことなどから、途上国の成長と開発にとっても関心がありました。学部時代は、日本の大学で勉強し、主に日本人と一緒に社会問題や国際関係について授業の受けておりましたが、より多様で、レベルの高い環境で勉強がしたい思いからサセックス大学で開発の勉強をしたいと思いました。入学できて本当に夢のような気分です。

学業について

コースでは名前の通り持続的な開発について経済、政策、イノベーション、社会運動の様々な側面から考察しています。主に経済では「Innovation for Economic Development」という授業では、途上国の経済発展はどのような仕組みで行われるのかについて過去の歴史のパターンから作られたフレームワークの勉強をしました。具体的には国の経済的な発展には、輸出品目の多様化や国の主要産業をサービス業に移行させる Structural Change（構造変化）が必要だということ学びました。政策の授業は、気候変動問題や経済格差の問題に対してどのような政策を打つのが最適かを授業でディスカッションをしていく形式でした。個人的にはこの授業の難易度が一番高く、扱っている内容も複雑で苦労をしました。政策1つを取っても、誰にプラスで誰にマイナスの政策なのか、他に可能だった政策との比較など多角的な視点を常に求められるので大変でした。イノベーションの授業は名物教授 Paul Nightingale

先生の元、主にこれまでの世界各国の経済発展にイノベーションや科学がどのように貢献してきたかという内容の授業でした。最後は、社会運動という側面から持続的な開発を考察する授業がありました。この授業ではSDGsについての議論をする機会がありました。名物教授の Andy Stirling 先生のもと、様々な問いがクラスに投げかけられ世界各国からの生徒が答えていくという形でした。開発と持続性は相反するものではないのか？SDGsは本当に機能しているのか？など興味深い問いをたくさん考えました。その中でも印象的だったのが、コンゴからの学生が「SDGsは先進国が、途上国を発展させないように課した目標である」という発言を聞いた時は、今まで考えてなかった視点だったので驚きました。世界中から来るコースメイトと開発課題、環境問題を始めとする様々な重要トピックについて利害関係なく自由に議論できるのはとても貴重な時間だと感じております。

ブライトンでの暮らしについて

大学寮のスタンマーコートに住んでおり快適な生活を送っております。勉強に集中したい時は歩いて5分の図書館に籠り文献を読み漁ったり、課題のレポートを執筆したりしています。オフの時は学校の丘の上のグラウンドで友人とサッカーをしたり、ブライトンのサッカー観戦をしたり、友達と海辺でリラックしています。ブライトン市内の方はイギリスならではの石畳の道や古い建造物があるとエリアがあり、少し場所を変えるとブライトンらしい若い人が集まる活気のあるエリアもあるなど、とても学生に良い街だと感じております。

今後について

私の夢は、生まれた場所によって運命が決まらず、夢を持ち頑張れば可能性が広がる社会を作ることです。ラオスやウガンダで見た、優秀で夢に溢れている人たちに活躍する場所を提供し、彼らの相談に乗ってあげられるような人になりたいと思います。私の取り組みを通して誰かの人生を前向きにすることができるようにこれからも頑張っていきます。



コースメイト達とファルマーバーで秋学期の打ち上げをした時の写真。

ALUMNI NOW!

河野 真由 (こうの まゆ)

MA in Social Development (2023 年修了)

JICA 人間開発部保健第 2 グループ保健第 3 チーム



サセックス大学での学びとその後のキャリア

2024 年 1 月。卒業式に出席するために 4 か月ぶりに降り立ったブライトンは、冷たい波風で私を迎えてくれました。寒さに震えながらも、戻ってきたという思いが心を温かく満たしてくれました。その卒業式からまだ 1 年も経っていませんが、サセックス大学で学んだことが自分に与えた影響の大きさを改めて実感しています。開発学を学び、一生の友人と出会うことができた 1 年は、私の人生の宝物です。

小学 3 年生のとき、あるドキュメンタリー番組を見て衝撃を受けました。私と同じ年頃の子どもたちが、劣悪な衛生環境の中ゴミ捨て場を漁ったり、身体よりも大きな兵器を担いでカメラを睨みつけていたりする姿を私は今でも忘れられません。幼いながらに「自分にできることは何だろう」と考え、家の近くにあったユニセフ協会の活動に参加する中で、「世界中の貧しい子どもたちに寄り添う仕事がしたい」と考えるようになりました。中学・高校と通ったプロテスタントの学校で「恵まれた環境に生まれた者として、よりよい社会を構築し、惜しみなく他者のために貢献する」という教えに触れました。それが今の私の軸となっています。

大学では副専攻の国際協力コースで JICA や開発コンサルタントの方々から高度な知識や実践方法を学びました。特に、プロジェクトマネジメントの講義では、理論を学びつつ実際の現場でどのように問題解決を行うかまで考えることができました。しかし、当時は自分の専門分野を絞ることができなかつたため、大学卒業後は就職することにしました。感染症に注力している製薬企業に入社してからは、MR として個別の病気治療に関する知識や医薬品のマーケティング力を磨きながら、国民皆保険による医療アクセスや感染症対策の重要性を学びました。その後、COVID-19 パンデミックが引き起こした世界的な課題に対して問題意識を持つ

ようになりました。この時期、世界中でみられた健康格差や不平等な医療アクセスは、私にとって大きな衝撃であり、一歩踏み出すための契機となりました。

グローバルヘルスの観点から開発学を学ぶことを決めた私は、社会貢献の方法をさらに広い視野から考え直しました。Social Development の理論の授業では、新自由主義の影響をクリティカルに考える姿勢を培いました。選択授業では、先住民の視点を考慮した脱植民地主義の重要性や、包括的で健康格差のない世界を実現するために何ができるかを真剣に考える機会を得ました。そこで出会った高い志を持つ仲間たちとの友情は、何ものにも代え難い財産となっています。異なるバックグラウンドを持つ友人と共に談笑し、社会問題やその解決策を議論した日々は、今でも忘れられない思い出です。

帰国後、短期間でしたが外務省の国際保健戦略官室で勤務しました。マルチセクターとの協力を通じて日本の国際戦略を検討する等、非常に貴重な経験を得ました。特に国際機関や NGO、官民ファンドとの連携による協力の重要性を感じました。その後バイラテラル援助、特に技術協力事業に携わりたいという思いが強まり、2024 年 4 月に JICA に転職しました。現在は人間開発部保健チームに所属し、ベトナムの肝炎対策やマレーシアのワンヘルスアプローチ、パプアニューギニアのフィラリア対策などのプロジェクトを管理しています。

入構したばかりですが、ベトナムやマレーシアに出張して現地調査を実施し、カウンターパートと協力してプロジェクトを進めています。現地の人々と直接話すことで、自身の携わっている業務が役に立っていると実感したときは、非常に嬉しく思ったものです。グローバルサウスを含めた全世界の人々の健康格差を減少させるという夢の実現のために、ただの理論ではなく現場での課題にどう対処していくか、これからも模索を続けていきたいと思っています。

サセックス大学で得た学びや経験は、私にとって大きな指針となり続けると確信しています。これからも、サセックス大学の卒業生として、多くの先輩方にご指導いただきながら、そして同級生や仲間たちと共に支え合いながら、成長していきたいと思っています。



コースメイトとのクリスマスパーティーの様子

“Meet the Toshikas” What makes this Project for African Entrepreneurs Different?



同窓会の皆様

UNDP and TICAD are working together to “unleash the potential of young entrepreneurs across Africa” through the “Meet the Toshikas” project. Sponsored by the Ministry of Economy, Trade, and Industry of Japan (METI), this project provides policy, technical and financial support to young African entrepreneurs who want to create their own businesses. In 2024, the project was implemented in Angola, South Africa, and Zambia.

Against a backdrop of falling official development assistance, donors and recipient country governments are seeking new sources of growth which are truly owned and driven by the recipient countries. Does this project represent a new approach to aid, or is it still prescribed by Japan? Please join Sachiko Hara (MA in Globalisation, Business and Development, 2019) who works as a JPO in UNDP South Africa. Sachiko is one of the key support staff of this project and will share her insights into why this project is different from other ODA projects.

開催日：2025年1月31日(金)

時間：東京時間の午後8時—9時半

場所：ZOOM方式

スピーカー：原祥子さん (MA in Globalisation, Business and Development, 2019 卒)

参加の申し込み：yamamoto.jenny@gmail.com (最大100人まで)

申込の締め切り日：2025年1月26日(日)

申し込まれた人に ZOOM 会議のご案内をお送りいたします。

原さんのご紹介：UNDP 南アフリカ Africa Sustainable Finance Hub, Startup Program Analyst

富士通株式会社で ICT コンサル後、アフリカの現場をみたいと、海外協力隊としてマラウイでコミュニティ開発として活動。現地の方60人と炭ビジネスを構築。その後は経験をアカデミックから見直すため、英国サセックス大学 IDS MA in Globalisation, Business and Development にて修士取得。ICT4D×アフリカ×農業について研究。2ヶ月 WASSHA 株式会社にてインターン。2019年10月から JICA の経済開発部民間セクターグループに所属し、アフリカの中小企業支援。2021年9月よりスタートアップ専門家として、エチオピアに赴任して現地のスタートアップを支援する JICA のプロジェクトを実施し、2024年1月より現職。



関連 Website：[UNDP スタートアップ支援を通じて日本とアフリカを繋ぐ](#)

LinkedIn：www.linkedin.com/in/sachiko-hara-009b10113

お知らせ

「シニア(先輩)とジュニア(後輩)を結ぶ世代間交流の促進」活動のご紹介

藤村建夫

2023年度から、新しい同窓会の活動として、表記活動が開始されましたので、ご紹介いたします。ここでいう「シニア」と「ジュニア」の意味は、「先輩」と「後輩」といった意味で使用しており、一般的に意味するところの年齢の高い、低いという意味ではありません。

目的

「シニア(先輩)とジュニア(後輩)を結ぶ世代間交流の促進」活動は、自らのキャリア開発を目指すジュニア(後輩)世代が、シニア(先輩)世代が持つ専門的に豊富な知識・経験を共有できるための機会を提供しようとするものです。

同窓会の財産を共有する活動

サセックス大学同窓会日本支部は、1991年11月に設立され、32年の歴史を持っています。2024年現在では、常時150~200名の学生・研究生が大学に在籍するようになりました。この間に、日本人留学生の総数は優に1000人を超えていると推定され、同窓会は、会員の年齢構成が20代から70代までの広範な世代が所属する団体になりました。

シニア(先輩)会員は、国内外の多様な分野の組織で働いた経験に基づく貴重な知見とノウハウを持っており、これは同窓会の貴重な財産です。このような知見とノウハウは、人生を模索しているジュニア(後輩)会員にとっては、大いに有益な情報でもあります。そこで、本活動は、この貴重な同窓会の財産が世代間で円滑に共有されるためのメカニズムを創造し、機会を提供することを意図しています。

世代間交流の応募方法

シニア(先輩)/ジュニア(後輩)世代間交流を希望する人は、簡単な略歴書を添付して、相談したい事柄を明記して、下記の宛先(担当幹事：藤村建夫、甲斐田万智子)に送付してください。

tfuji3181@hotmail.com; cc: kaida@c-rights.org

- 経費は無料です

申込を受け取ってから、適切と思われるシニア(先輩)世代の会員をご紹介します。交流が実現しましたら、簡単な結果を事務局宛てに報告してください。

すでに、2023年には、5件、2024年度には2件のご相談を受けて、適切な先輩をご紹介します。キャリア開発に役立ててもらいました。先輩とのネットワークをもっていない後輩の皆さまからのご相談をお待ちしていますので、遠慮せずにとどしとお問い合わせください。

国際開発分野でシニア世代が活躍する組織・団体

国連と国連関係機関	国際協力機構(JICA)
世界銀行グループ	NPO/NGO、財団法人
アジア開発銀行	開発コンサルタント企業
国際 NGO	大学・研究所

本活動の詳細については、下記 URL より、同窓会のホームページをご参照ください。

<https://www.usussex-japanalmuni.org>

[シニアとジュニアを結ぶ世代間交流プログラム](#)

[| サセックス大学同窓会日本支部](#)

編集後書：今回のニュースレターはIDS 2023年卒業の小林琴音(JICA 東京本部勤務)とIDS 2017年卒業の齊藤吉洋(世界銀行ネパール事務所勤務)で編集しました。編集を通じて、サセックス大学に留学していた時間を懐かしむと共に、世界中で活躍している同窓生に刺激をもらいました。同窓生で、ニュースレターに関するご意見や次回は記事の寄稿をしてくださる方などもしければ、ご一報頂ければ幸いです。